

名古屋文理大学

「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）」申請予定
令和 6 年度 全学実施に関する自己点検・評価体制における意見等

名古屋文理大学

令和 6 年度 教務委員会（数理・データサイエンス・AI 教育ワーキンググループ）報告
自己点検評価委員会 点検・評価・確認

目次

1. 自己点検・評価の視点	2
1-1 学内からの視点	2
（1）プログラムの履修・修得状況	
（2）学修成果	
（3）学生の内容の理解度	
（4）学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	
（5）全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	
1-2 学外からの視点	3
（1）教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	
（2）産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	
1-3 数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」の理解	3
1-4 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	4
2. 自己点検・評価の結果	4
2-1 学内からの視点	4
（1）プログラムの履修・修得状況	
（2）学修成果	
（3）学生の内容の理解度	
（4）学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	
（5）全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	
2-2 学外からの視点	6
（1）教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	
（2）産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	
2-3 数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」の理解	6
2-4 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	7

(以下本文)

1. 自己点検・評価の視点

1-1 学内からの視点

(1) プログラムの履修・修得状況

本教育プログラム申請科目の導入科目「ICT 基礎」は必修科目であるが、残りの科目は選択科目である。従って、オンラインでの履修登録期間終了後、履修登録漏れの有無を確認するとともに、該当科目の履修者の単位修得状況は、自己点検評価委員会に報告して確認している。また、授業がシラバスに従って運営され、応用基礎コアカリキュラムの内容が全て実施されているかどうかを確認する。

(2) 学修成果

申請科目の学修成果について、学生による授業評価における理解度等の結果をもとに、年度ごとに差異があるかどうか、授業科目の理解度（数値化された平均値）の比較を含めて、評価結果を検討している。各科目の達成目標の到達を目指しており、これを実現するために、科目担当者間での検討結果報告を受け改善への方向を把握する。

(3) 学生の内容の理解度

本教育プログラム受講者全員に対して申請関連科目の学生による授業評価を実施している。定期的に学生による授業評価の分析結果を「拡大 FD・SD フォーラム」で報告し、全教職員に検討結果を周知している。学生による授業評価の結果は、個別の科目の結果のみでなく、全体の科目の平均値などの統計データも教学課で整理し、毎学期、学内で公開されるので、学生による授業評価の「理解度」の項目を中心に学生の内容の理解度を把握している。

(4) 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

本学では、学生全員に少人数制のゼミを実施しており、その中で学生による授業評価分析結果を参考に、既履修学生の経験や意見を紹介し、本プログラムに取り組む姿勢の重要なポイントを周知させている。学生による授業評価の結果（受講生の自由記述を含む）は学内に公開し、次年度以降の受講者も閲覧可能にしてある。本プログラムの意味・学修の意義については、新入生ガイダンスや専用 Web サイトにて周知するとともに、該当授業をサポートする上級学年の SA（Student Assistant）からも伝えられる。

(5) 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本学では本教育プログラムの申請科目は、1年次導入科目の「ICT 基礎」は必修であるが、2年次以降の科目は選択である。実際の履修者数・履修率に加えて単位取得者数を含めた報告を自己点検評価委員会で確認し履修率向上につとめる。

1-2 学外からの視点

(1) 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

本教育プログラムの修了学生は非輩出のため、進路・活躍状況・企業からの評価を把握できていない。近隣の関係企業（産学連携先や就職実績があり継続して採用計画のある企業）からは、本学卒業生に関して定期的に、評価や要望などの調査を実施しており、今後、本プログラムの修了者についても状況把握を行う予定である。

(2) 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

毎年企業との協議により本学科の教育課程に関する意見を収集している。この意見を参考にしてカリキュラム改編計画を進めており、改編の中で数理・データサイエンス・AI教育の充実も図ることにしている。情報メディア学科では、産学連携先やインターンシップ先で主にシステム開発に係るデータサイエンス教育の内容について定期的に意見交換する場に参加している。いずれも今後は本プログラムの内容・手法についても意見聴取を行う。

1-3 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」の理解

応用基礎レベルモデルカリキュラムの科目の授業の中で、情報社会の進展でデータの有効活用により、新たな経営戦略・新たなビジネスモデルが生まれる可能性と、その実現例を紹介することで数理・データサイエンス・AI教育の必要性を分かりやすく講義するとともに、必要不可欠性を理解させる。学生による授業評価の「授業への参加度」「授業への満足度」「理解度」および自由記述から学生の積極的参加意欲等を比較検討し、授業改善を図っている。

1-4 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

本教育プログラム申請科目は全て情報メディア学部情報メディア学科の専任教員が担当している。学科教員会議、担当教員が参加する教務委員会にて授業方法・授業内容の検討を定期的実施し、内容の水準維持向上を検討している。また、学生による授業

評価の「満足度」「理解度」および自由記述から学生の理解度等を把握して検討し、授業改善につなげている。

2. 自己点検・評価の結果

自己点検評価委員会において、教務委員会からの報告に基づいて、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）」の実施に関する評価を行った。同プログラムを構成する対象科目「ICT 基礎」「データサイエンス」「人工知能」「知識情報学」のシラバス、授業実施状況、SA 等の配置状況、そして、開講クラスごとの「学生による授業評価」の結果（受講学生による評価の平均値）をもとに受講クラス間の単純平均を学科ごとに集計した値を参考に評価した。

なお「学生による授業評価」の評価は、いずれの調査項目も、

4：そう思う

3：まあそう思う

2：あまりそう思わない

1：そう思わない

の4段階評価の平均値であり、教務委員会（授業評価ワーキンググループ）では、平均値が3.5 ポイント以上の場合に「優れている」、3 ポイント以上の場合に「おおむね達成している」と評価している。

2-1 学内からの視点

（1）プログラムの履修・修得状況

・履修状況（令和7年5月自己点検委員会確認）：

本プログラムの履修者数および修了者数（令和6年度）

学科（対象学年在籍者数）	履修者数（人）	修了者数（人）
情報メディア学科 120	118	0

対象科目「ICT 基礎」は卒業要件の必修科目であるため、学年配当対象学年（1 年次生）の在籍者数とほぼ同じ人数が本プログラムを履修している。単位未修得者で、卒業を目指す場合は、来年度以降に未修得科目の再履修を行うこととなる。令和7 年度以降は進行時の対象科目についても修得状況を検証していく。

・教務委員長、教学部長、情報メディア学科長によるシラバスの点検を経て記載事項を確認した。

シラバスの内容の実施状況

学生による授業評価 「この授業はシラバス通りに行われた」(1 - 4)	ICT 基礎 (ポイント平均)
情報メディア学科	3.56

「この授業はシラバス通りに行われた」は、平均評価値が3ポイントを上回っており、学修成果が受講生に実感されていると言える。特に3.5ポイントを上回る評価は、優れた成果の表れであると考えられる。

(2) 学修成果

学修成果の達成度に関する学生の評価（開講授業の評価の平均）令和6年度対象科目「ICT 基礎」について示す。

授業の理解度

学生による授業評価 「授業の内容は理解できた」(1 - 4)	ICT 基礎 (ポイント平均)
情報メディア学科	3.56

目標達成度

学生による授業評価 「授業をうけて履修の目標が達成できた」(1 - 4)	ICT 基礎 (ポイント平均)
情報メディア学科	3.63

「目標達成度」は、全科目・全学科で平均評価値が3ポイントを上回っており、学修成果が受講生に実感されていると言える。特に3.5ポイントを上回る評価は、優れた成果の表れであると考えられる。

(3) 学生の内容の理解度

前掲の学生による授業評価「授業の理解度」は、3ポイントを上回っており、学生の理解度が平均値としては、おおむね適正であったと言える。特に3.5ポイントを上回る評価は、優れた成果の表れであると考えられる。

(4) 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

全クラスで授業終盤に「学生による授業評価」アンケートを実施した。授業評価の

公開および学修カリキュラムの周知はオリエンテーションにて学生に周知されている。また、各学期のオリエンテーション時に SA (Student Assistant) の担当学生の研修を実施している。

(5) 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本学では本教育プログラムの申請科目は、1 年次導入科目の「ICT 基礎」は必修である。実際の履修者数・履修率に加えて単位取得者数を含めた報告が教務委員会からなされ、令和 7 年 5 月開催の自己点検評価委員会で確認した。

2-2 学外からの視点

(1) 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

近隣の関係企業（産学連携先や就職実績があり継続して採用計画のある企業）からは、本学卒業生に関して定期的に、評価や要望などの調査を実施しており、今後、本プログラムの修了者についても状況把握を行う。

(2) 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

情報メディア学科では、産学連携先やインターンシップ先で主にシステム開発に係るデータサイエンス教育の内容について定期的に意見交換する場に参加している。

2-3 数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」の理解

学生による授業評価の「授業への参加度」「授業への満足度」の評価結果は以下のとおりであった。

授業への参加度

学生による授業評価 「授業に積極的に参加し学ぶことができた」(1-4)	ICT 基礎 (ポイント平均)
情報メディア学科	3.61

授業への満足度

学生による授業評価 「この授業に満足している」(1-4)	ICT 基礎 (ポイント平均)
情報メディア学科	3.56

全ての学科の全ての科目で平均 3 ポイント以上の評価を受けており、おおむねよい評価を受けたと言える。特に 3.5 ポイント以上の評価は「優れている」と評価できる。

2-4 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

本教育プログラム申請科目は全て情報メディア学部情報メディア学科の専任教員が担当している。学科教員会議、担当教員が参加する教務委員会にて授業方法・授業内容の検討を定期的の実施し、内容の水準維持向上を検討が行われている。また、学生による授業評価の「満足度」「理解度」および自由記述から学生の理解度等を把握している（前掲）。今後も授業方法に改良・工夫を加え、学生による評価値の年次変化を比較する。

以上、名古屋文理大学 令和6年度 教務委員会報告
名古屋文理大学 自己点検評価委員会 点検・評価・確認